

リスタート

～「生きがい」を見つけるための重要な4つの要素～

法人・事業所名

社会福祉法人椎の木福祉会 半田養護老人ホームLink

職種・発表者

支援員係長／竹内正光・支援員／斉藤洋子

01 取り組んだ課題

- 近未来を見据えた時、ICTの活用が進み効率性は高まるが、一方で人と人とのつながり、温かいケアの提供が希薄になる。
- ゆとりをもって向き合う時間が増えるからこそ、人間にしか行うことができない温かいケアをどう実施していくかを活動目的とした。
- 多職種で話し合い「生きがい」という概念に着目

02 具体的な取り組み

- 職員数（支援員8名・相談員2名・機能訓練指導員1名）
- 生きがいの図とブラッドショーの4つのニードをもとに、ご入居者3名（E様・T様・M様）に対してアセスメントを実施

【事例① 歩きたい】

- 歩きたいが表明ニード、早期の介入によって筋力や柔軟性を向上させることができ日常生活の質改善が見込まれ、リハビリを行うことにより自身でできることが増え、生活の自立度が高まる方を専門家が判断する規範的ニードと捉え、E様とM様を対象者とした。
- 目標達成に向けて、ご本人を含めた各職種の役割を二段階に分けて設定及び最終目標も掲げた。

【事例② 表現・行動】

- 表現・行動に移す必要性を表明ニード、地域と特性を加味したものを比較ニードと捉え、T様とE様を対象者とし目標を掲げた。
- 事例②ではリスクマトリックスを加えることで評価分析をより具体化した。
- T様/外出が表明ニード、リスクマトリックスから社会的・心理的リスクに着目し「GPSでつなぐ地域交流」「社会的つながりの強化」に取り組んだ。
- E様/おしゃれが表明ニード、リスクマトリックスから社会的・心理的リスクに着目し「おしゃれアイテムの提供」「スタイリングサポートの提供」に取り組んだ。

03 活動の成果と評価

【事例① E様・M様/歩きたい】

- 歩きたい強い意志があり、明確な目標設定があることが重要
- 多職種が協力し、目標に向かっていくチームケアを実践することで効率良く目標達成までたどり着ける。
- 目標を詳細に設定し、小さな成功体験を積み重ねることが自己肯定感へつながる。

【事例② 表現・行動】

<T様/地域交流>

- なじみの関係である社協職員と交流することが楽しみとなった。一人では意思の弱さからエスケープのリスクがあるが、GPSがお守り替わりとなり心理的安定へつながった。
- 外出支援を行うことで、社会的つながりの強化が図れた。

<E様/自己実現>

- アロマオイルを使用した足のマッサージの評判が良く、心理的安定へつながった。
- ニーズを汲み取ったヘアカラーを行うことで、自己表現及び特性にアプローチできた。
- E様/看取り対応の方が、ご本人の努力や意志の強さもあり、施設での通常生活が可能になるまで回復した。可能性を信じて、ありのままの自分を受け入れ、自己表現を促進することで自分らしさを取り戻すことができた。

04 今後の課題

【事例① E様・M様/歩きたい】

- ニーズに真摯に向き合うことは大切だが、転倒したり、歩きにくくなる可能性の高い方が多いことを意識して多職種で検討、判断したうえでアプローチする。
(ニーズと実現可能性、両者を総合的に検討する)

【事例② 表現・行動】

フィードバック達成のため、以下のステップを取り入れる。

<T様/地域交流>

- 行動の背景理解・安心感提供・パターン特定・スタッフ間共有・フィードバック実施

<E様/自己実現>

- フィードバック収集・スタッフ間共有・継続的改善

※個人的な「生きがい」に正解があるわけではない。人間にしかできない生きがいの見つけ方は様々で、方法は一人ひとり異なることを重要視する。

※参考資料

- ・ ikigaiベン図、生きがいの4つの構成要素
- ・ ブラッドショーの4つのニード
- ・ リスクマトリックス
- ・ 令和4年 人生100年時代マインド調査

リスタート

「生きがい」を
見つけるための重要
な4つの要素

施設名：半田養護老人ホームLink
発表者：竹内正光
機械操作：斉藤洋子



リスタートは新たなスタートを切る機会となり、再出発に際して過去の経験を活かし、より良い結果を目指す。



Link

瑞光の里

基本理念

地域における
最後の拠り所

自分らしさを
アシストする

*Your safety net
supporting people*

福祉を
Enjoyする



「ご入居者が安心して利用できる」「ご家族が安心して大切な人を預けることができる」「スタッフが誇りをもって働ける」そのような魅力ある法人運営をスタッフと共に実践しています。

仮説 AIとロボットが活躍する未来介護の予想

◆コンシェルジュロボット



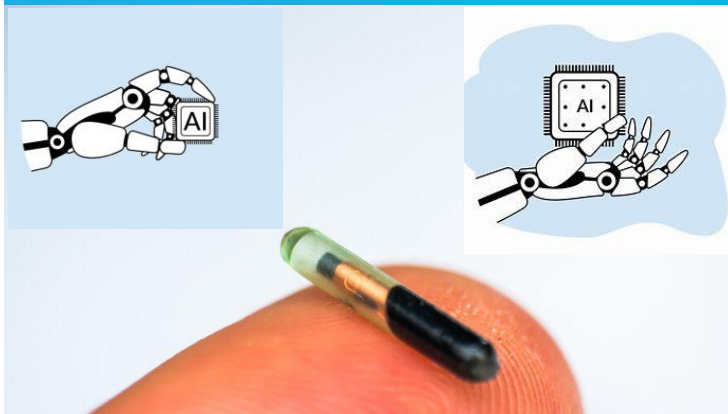
◆移動支援



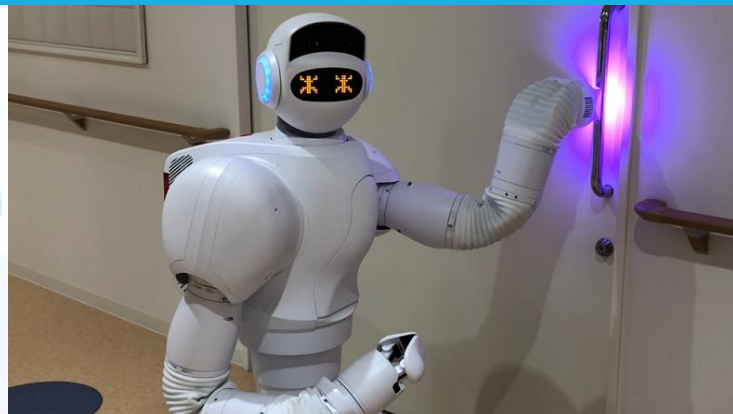
◆排泄支援



◆生体チップ



◆見守り支援



◆入浴支援



2050年には、福祉業界においてさらに高度な介護ロボットが導入されることが期待されています。これらのロボットは、様々な機能を持つことが予想されます。

仮説 AIとロボットが活躍する未来介護の予想

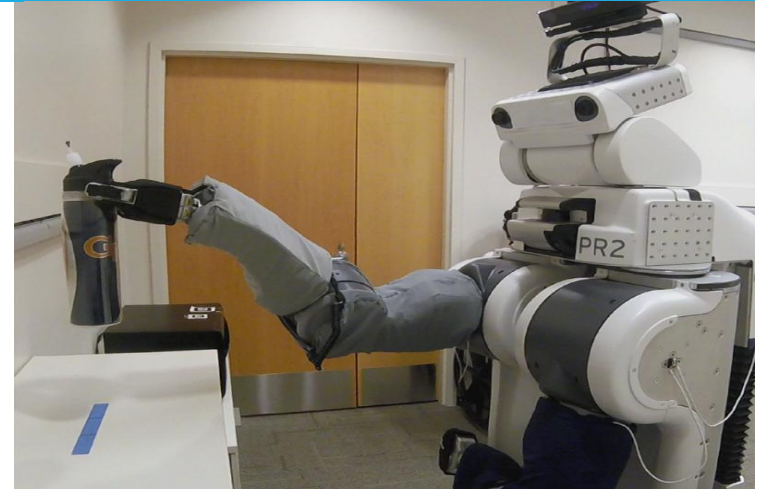
◆機能訓練支援



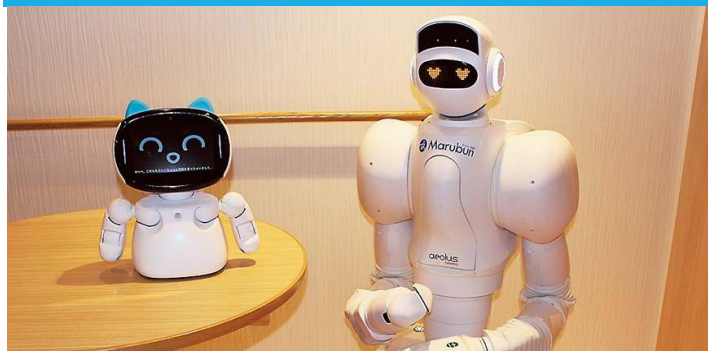
◆服薬支援



◆食事支援



◆認知症



◆日常業務支援



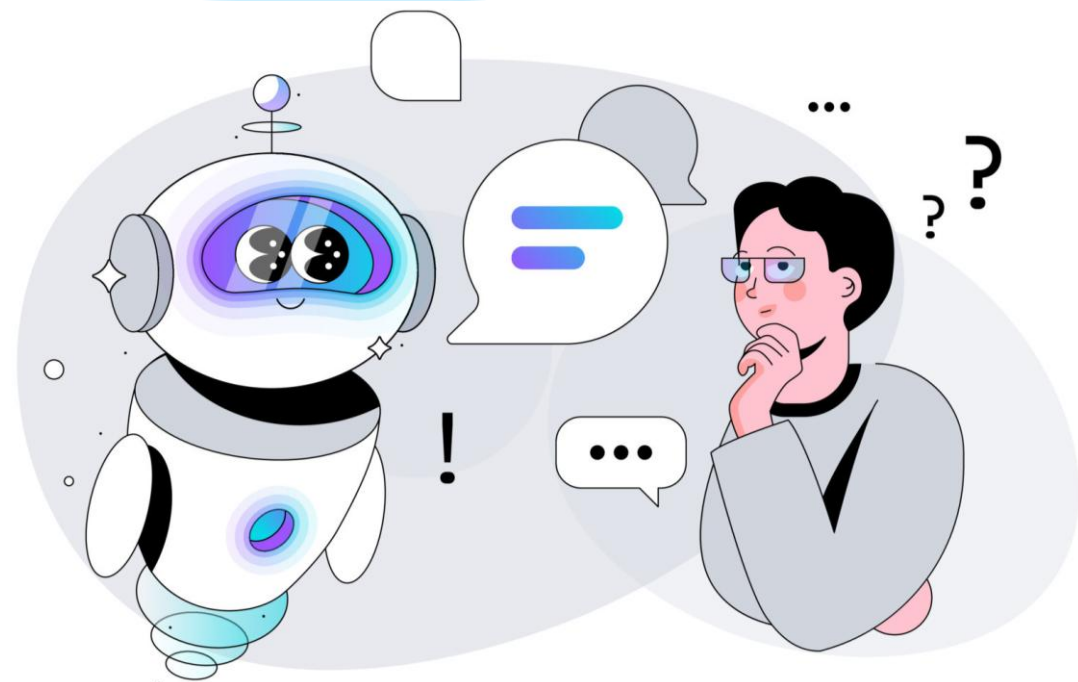
◆レクリエーション



高度な人工知能(AI)・自律移動機能・感情認識・医療機能・コミュニケーション機能 これらの技術の進化により、介護業界はより効率的で、ご利用者にとって快適な環境を提供することができるようになるでしょう。このような未来の介護ロボットについてどう思いますか？

<活動目的>

ゆとりをもってご入居者と向き合う時間が増え、人間にしか行うことができない温かいケアを実施するには？



夢を叶える力

コミュニケーション力
Communication

身体能力
Physical Ability

好奇心
Curiosity

表現力
Expression

自己肯定感
Self-Esteem

Ikigai
something to live for

行動力
Action

想像力
Imagination

回復力
Resilience

創造力
Creativity

生きがい



具体的には、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、人と人・人と資源が世代や分野を超えてつながることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに作っていく、その実現のためには？

仮説 アセスメント:生きがいの4つの構成要素の活用と情報分析

4つの構成要素

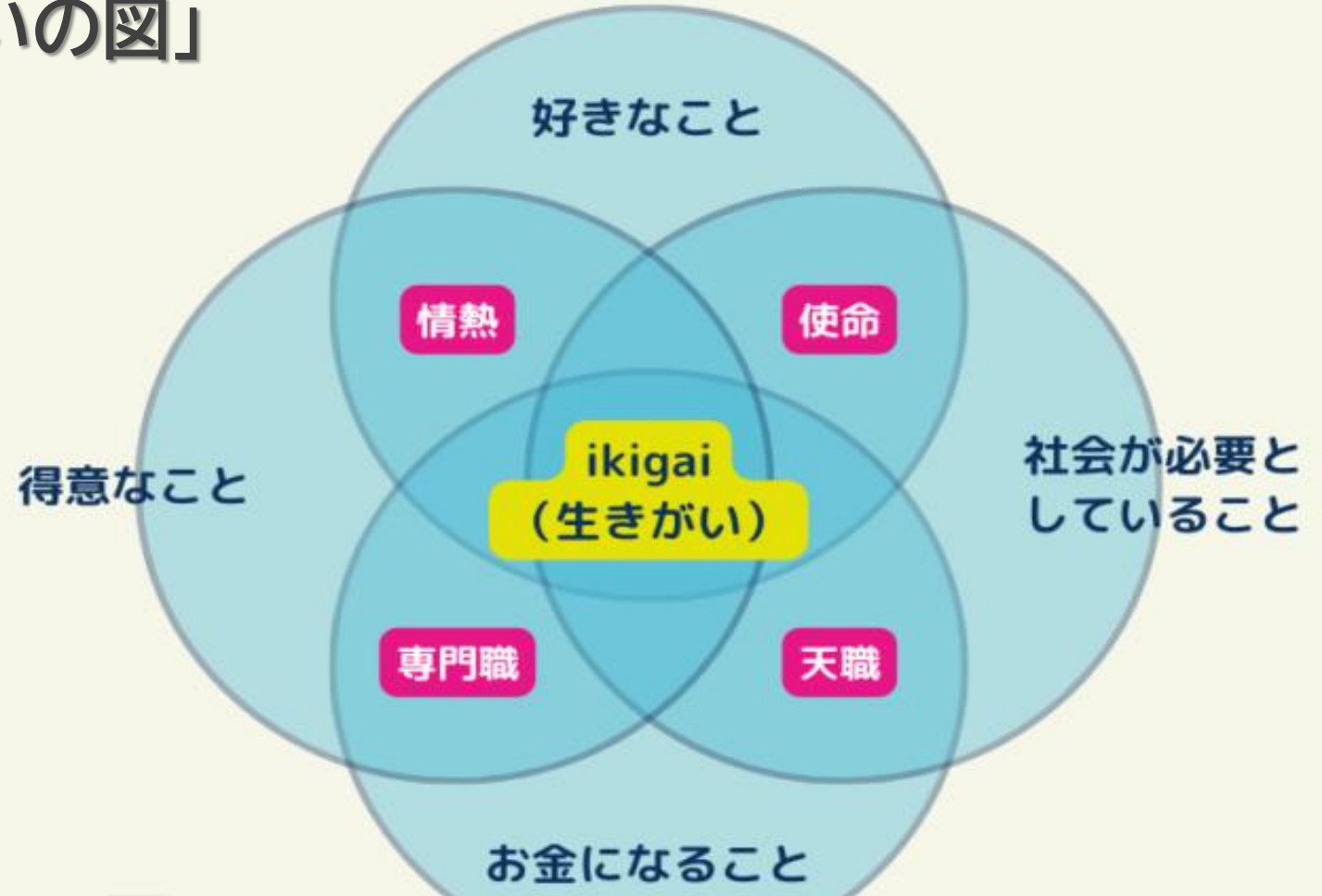
好きなこと

得意なこと

必要とされること

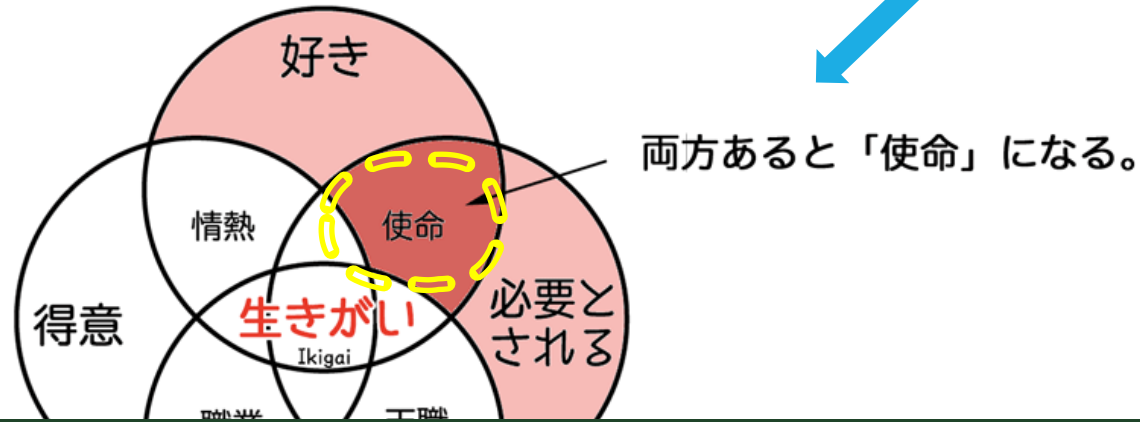
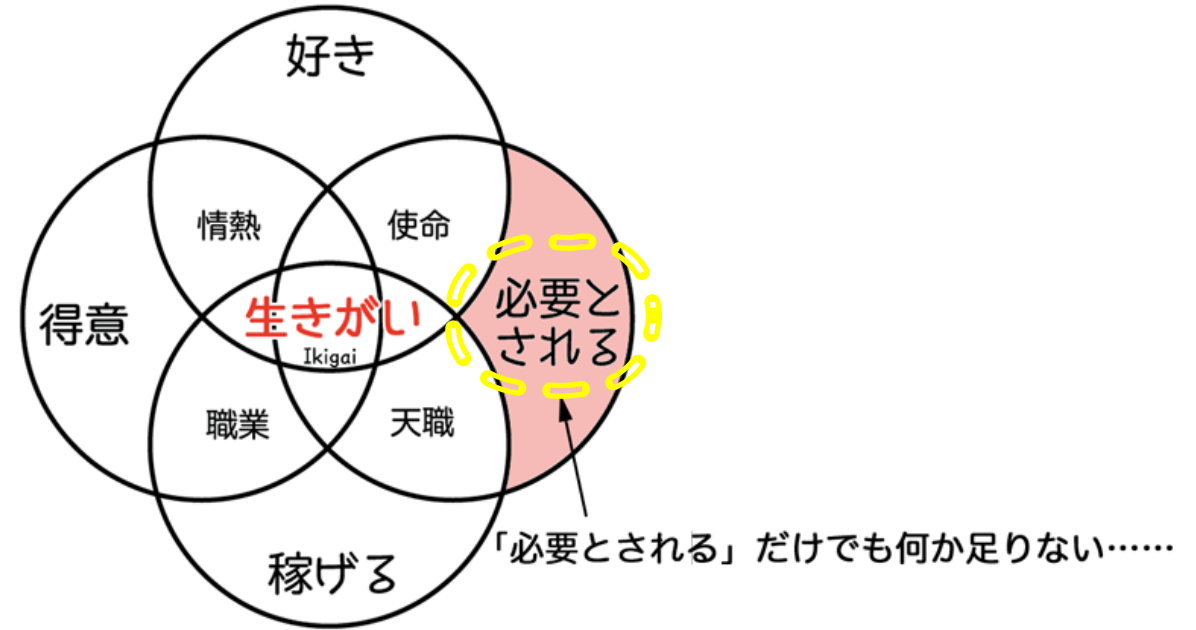
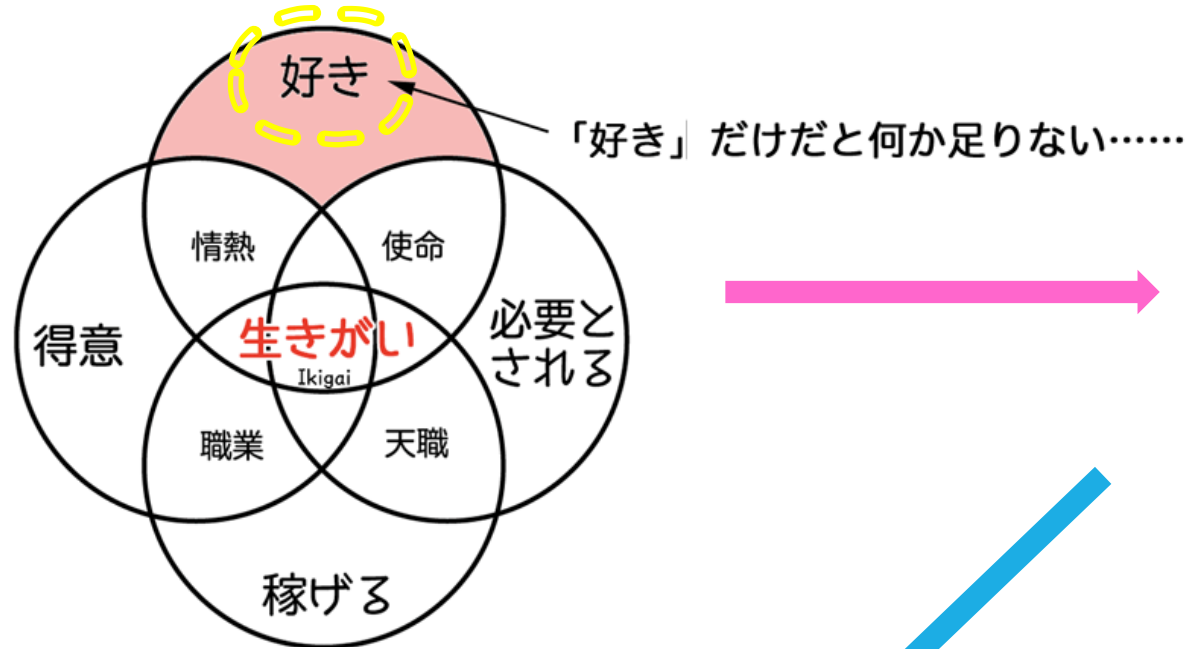
感謝が得られること

「生きがいの図」



2050年の未来でも、人間にしかできない生きがいの見つけ方は、個人の内面や関係性に深く根ざしています。未知の領域に挑戦・心と身体の健康など、生きがいを見つける方法は一人ひとり異なりますが、これらのアプローチを組み合わせることで、自分にとって意味のある充実した人生を築くことができます。

仮説 アセスメント:生きがいの4つの構成要素の活用と情報分析



個人的な「生きがい」というものに正解があるわけではありません。しかし、そこを目指すための一つの指針として、この図をもとに、「生きがい」を模索してみました。何か足りないと感じていたのなら、何が足りていなかったのか、この図から探ることで、何かしらの発見があると思います……。

好き×得意=情熱 得意×稼げる=職業 稼げる×必要とされる=天職 必要とされる×好き=使命
2つが重なるものを見つけられれば、一般的にはかなり幸せな人だと思いますが、この方法で「好き×得意×稼げる×必要とされる」4つ全てが重なると「生きがい」になります。

仮説 アセスメント:ブラッドショーが提唱する4つのニード

視点	ニード (日本語表記)	ニード (英語表記)	内容
本人	自覚ニード 感得されたニード	フェルトニード	本人が自覚しているニード
	表明ニード	エクスプレスト ニード	本人が表明したニード
他者	比較ニード	コンパラティブ ニード	同じような状況でサービスを利用している人に対して利用していない人のニード
	規範的ニード	ノーマティブ ニード	行政や専門家が判断するニード

スタッフがどのような価値のもと支援を行うかという「立ち位置」

ブラッドショーの4つのニードを展開するためのステップ ニーズの評価→データ分析→戦略の策定→実施とモニタリング→評価とフィードバック

これらのステップを踏むことで、ブラッドショーの4つのニードを効果的に展開しました。

仮説 アセスメントが提唱する4つのニード



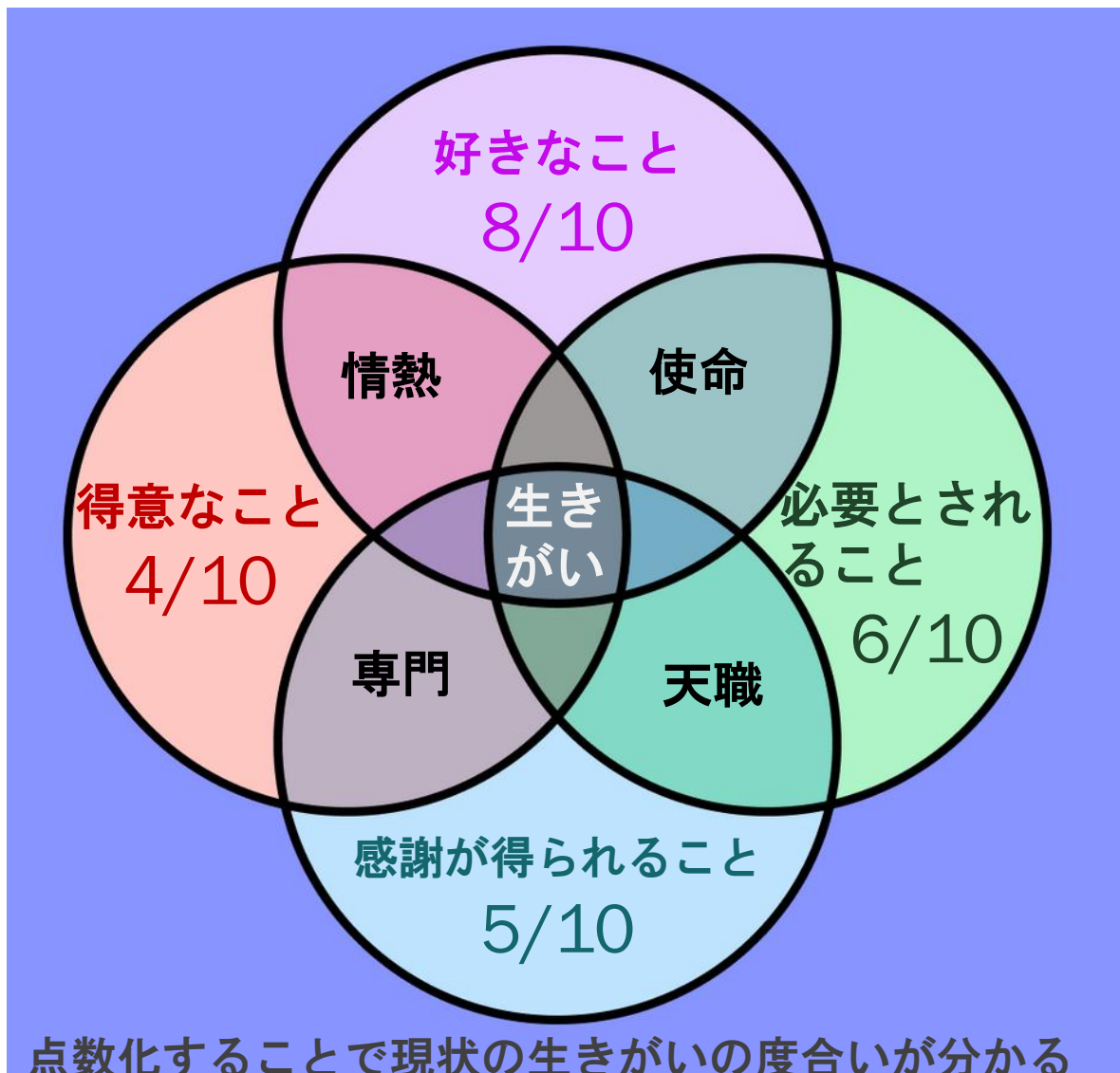
ブラッドショーが提唱した4つのニード(需要)の**キーワード**

キーワード

視点	ニード (日本語表現)		キーワード
本人	自覚ニード 感得されたニード		自覚・体感
	表明ニード	自分で表現・行動に移す必要性	<u>表現・行動</u>
他者	比較ニード	他人や地域と比較して明らかになる必要性	<u>比較・地域・特性</u>
	規範的ニード	専門家や行政が判断する必要性	<u>専門家・行政(望ましい基準)</u>

「生きがいの図」

生きがい (23/40)



年齢・性別

92歳・女性 E様

介護度

要介護2

人となり

お話し好き、感受性豊かな方

ご入居前の
生活状況

旦那様は20年前に他界
以降は長男夫婦と同居
自立度が低いため、令和2年6月
Linkに措置替え

『おしゃれ』

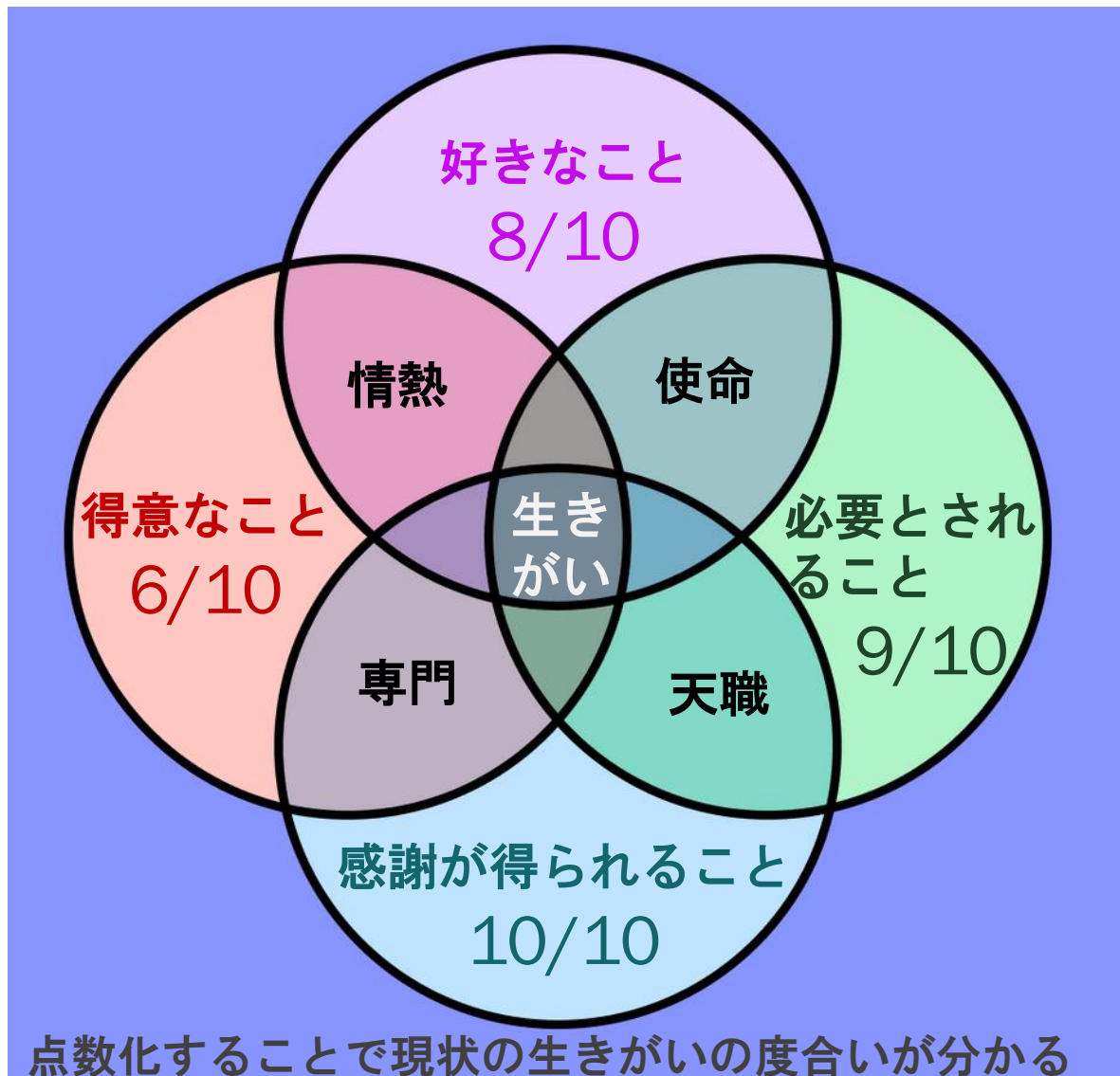
『歩くこと』

点数化することで現状の生きがいの度合いが分かる

倫理的配慮について E様に事例発表の内容と目的について書面及び口頭で説明し、同意にサインを頂きました。

「生きがいの図」

生きがい (33/40)



年齢・性別

70歳・男性 T様

介護度

要介護1

人となり

行動力があり、朗らかな方

ご入居前の生活状況

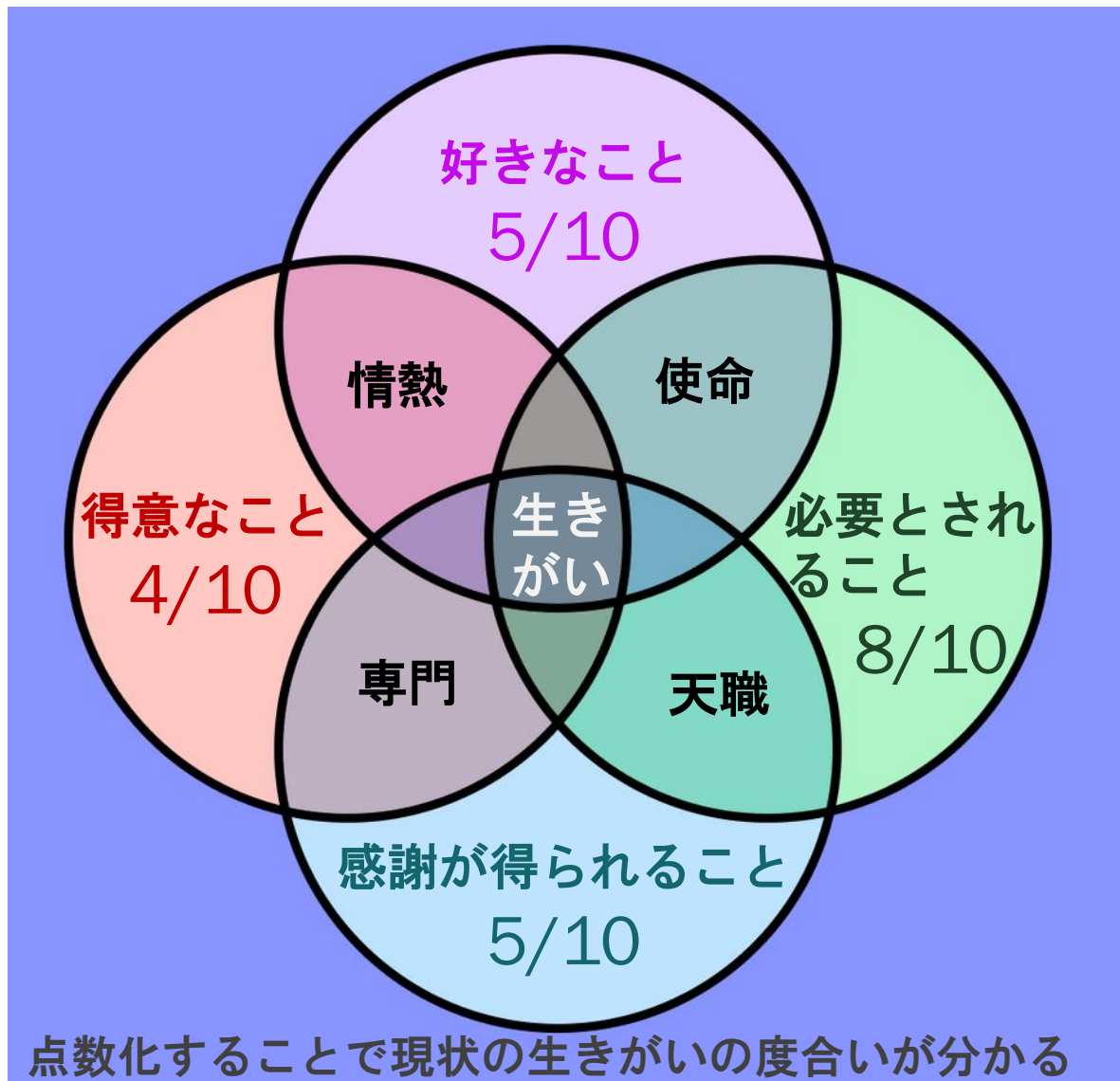
他者トラブルが絶えず、令和3年12月
支援開始 令和5年3月～アルコール
依存症の治療開始
令和6年8月Linkに入居

『外出』

倫理的配慮について T様に事例発表の内容と目的について書面及び口頭で説明し、同意にサインを頂きました。

「生きがいの図」

生きがい (22/40)



年齢・性別

92歳・女性 M様

介護度

要介護3

人となり

人間味があり、負けず嫌いな方

ご入居前の
生活状況

旦那様は35年前に他界
以降は一人暮らし
他者トラブル・自立度が低下したため
令和4年11月Linkに入居

『歩くこと』

点数化することで現状の生きがいの度合いが分かる

倫理的配慮について M様に事例発表の内容と目的について書面及び口頭で説明し、同意にサインを頂きました。



evidence

事例①

ブラッドショーが提唱する
4つのニード

事例②

リスクマトリックスの構成

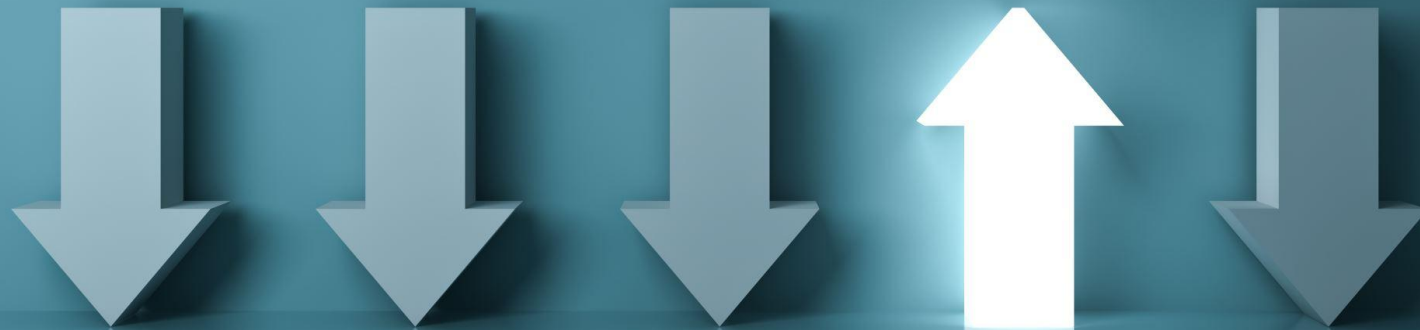
表明ニーズ / 規範的ニーズ

本人が表明したニーズ

専門家が判断するニーズ

事例①

歩きたい



対象者は早期の介入によって筋力や柔軟性を向上させることができ、日常生活の質改善が見込まれる方
リハビリを行うことで自身でできることが増え、生活の自立度が高まるご入居者を選定しました。

処遇計画書兼自立支援計画書				計画作成者		
氏名	様	作成日	令和 5 年 12 月 7 日 (前回作成日 令和 5 年 1 月 8 日)	生活相談員	竹内 正光	
介護保険認定結果	要介護2		居室名	501号室	入居者担当支援員	吉田 恵美子
有効期限	令和 4 年 8 月 1 日 ~	介護保険被保険者番号		保険者名		
	令和 8 年 7 月 31 日	介護保険特記事項、その他 居宅:瑞光の里 デイサービス:第二瑞光の里 福祉用具レンタル:車椅子・エアマット				

施設処遇・介護保険サービスに関する自立支援への方針	1、入所者の自立への希望、意向等 外に出れるよう頑張りたい。 ※2023年12月2日(土)確認
	2、自立のための必要な援助・相談助言その他の援助・社会参加活動・社会復帰の促進について バイタル測定を実施し体調管理に努め、可能な際は離床していただくことで気分転換を図れるよう支
	3、居宅支援計画書(要支援者、要介護認定者に限る)について 現在のサービスを継続し、機能維持に努めます。
総合的な援助の方針	体調を維持し、日々を心地よく過ごせるよう支援する。



具体的な課題	生活目標	目標期間(達成期間)	処遇内容
可能な範囲での食事量(水分量)を確保したい。	当日の体調に合わせて食事量(水分量)を確保し、栄養状態を安定させる。	1年間	<p>当日の体調に合わせて、食事提供をする。(ソフト食に形態変更)</p> <p>訪室時、ジュース等、水分補給に努める。</p> <p>嗜好品(好きな食べ物・飲み物)の確認を行う。</p>
体調に合わせて、居室から外に出たい。	当日の体調に合わせて食事時等、居室外に出て気分転換を図る。	1年間	<p>当日の体調に合わせて、昼食時にチルト式車椅子へ移乗(2人介助)本人様の希望を鑑み、食堂で召し上がっていただく。 ※食堂以外で、支援員室・離床しての自室も選択肢の一つ</p>
安楽に過ごしたい。	体調を維持し、日々を心地よく過ごす。	1年間	<p>看護職員・支援員でバイタル測定を実施し、体調管理に努める。</p> <p>訪室時、適切に口腔ケアを行う。 ※ジェル(保湿)・ハミングッド等、口腔ケア用品を活用する。</p> <p>適切にクッション等かいものを活用し、体位交換を行う。 ※適宜、機能訓練指導員と相談し、安楽な体勢を保持する。</p> <p>衣類交換・清拭を行い、衛生を保持する。 ※入浴(湯船)に関する対応は要検討</p>

看取り対応のプラン

令和5年11月6日

～現在に至る

E様

- ◆ご本人の意思尊重
- ◆体調に合わせて、居室から外に出たい
- ◆医療・介護の連携
- ◆心理的サポート
- ◆環境整備
- ◆継続的評価・改善

回復に向けたリハビリテーションやご本人の努力・意志の強さ、回復した後の現在の健康状態や生活、ご本人が持つ新たな目標や希望について紹介していきます。

< 最初の目標 >

- 自室内を自由に移動できる
- 歩行器・シルバーカーを使用して居室⇔トイレまで(10m)移動できる



< 目標設定のポイント >

- ニーズに合っていること
- いきなり高い目標を設定せず、実現可能なレベルで少しずつステップアップできるような目標にすること

事例① ご本人含めた各職種の役割分担

第一段階 ～ご本人～

表明ニード／規範的ニード

- 移動する時はコールでスタッフを呼ぶ
- ベッドから起き上がる時は、L字柵を使用しながら痛みのポイントを避けつつ、ご自分で起き上がる
- 車椅子からベッドに移乗する時は、L字柵やアームサポートを使用しながら、ご自分で移乗する
- 上記が安定してきたところで、歩行器・シルバーカーを使用



事例① ご本人含めた各職種の役割分担

第一段階

～支援員～

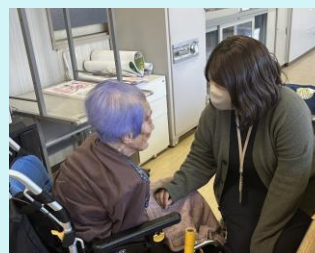
- 見守り
- できることを見極め、必要以上の介助はしない
- 精神的支援(共感的な声かけ・励まし)

～生活相談員～

- 精神的支援(共感的な声かけ・励まし)

～機能訓練指導員～

- 週1回、平行棒を使用した機能訓練
- 状態に合わせた介助方法のアドバイス
- 機能評価



事例① ご本人含めた各職種の役割分担

新たな取り組みは赤字表記

第二段階 ～ご本人～

- 移動する時はコールでスタッフを呼ぶ
- フロアを歩く時は歩行器・シルバーカーを使用
- (E様)週1回、平行棒を使用した機能訓練
- (M様)週1回、足上げ・足首運動の機能訓練
- 機能訓練指導員の立案した自主トレーニング



事例① ご本人含めた各職種の役割分担

新たな取り組みは赤字表記

第二段階 ～ご本人～

- 移動する時はコールでスタッフを呼ぶ
- フロアを歩く時は歩行器・シルバーカーを使用
- (E様)週1回、平行棒を使用した機能訓練
- (M様)週1回、足上げ・足首運動の機能訓練
- 機能訓練指導員の立案した自主トレーニング



事例① ご本人含めた各職種の役割分担

第二段階

新たな取り組みは赤字表記

～支援員・相談員～

- 早く歩きすぎないように声かけ
- 精神的支援(努力をたたえるような声かけ)

～機能訓練指導員～

- 週1回、平行棒を使用した機能訓練
- ご本人でできるリハビリプログラムの立案と説明
- 状態に合わせた介助方法のアドバイス
- 機能評価



<最終段階の目標>

- 付き添いのもと、定期的に散歩をする

<目標設定のポイント>

- 少しずつ歩ける距離を延ばすこと
- 外に出ることで気分をリフレッシュしていただくこと
- 外に出るといふ新たなチャレンジを行い、ご本人に変化を感じていただくこと



外出散歩(歩行器・シルバーカー)



電動車椅子

<成果・評価>

- 「歩きたいという」強い意志があり、明確な目標設定があることが重要
- 多職種が協力し目標に向かっていく「チームケア」を実践することで、効率良く目標達成までたどり着ける
- 目標を詳細に設定し、小さな成功体験を積み重ねることが、ご本人の自己肯定感へつながる

< 今後の課題 >

- ニーズに真摯に向き合うことは大切だが、転倒したり、歩きにくくなる可能性の高い方が多いことを意識して多職種で検討、判断したうえでアプローチする

※ニーズと実現可能性、両者を総合的に検討



表明ニード / 比較ニード

自分で表現・行動に移す必要性

地域・特性

事例②

表現
行動



< 目標 >

- 長期的に持続可能な形で必要なサービスを提供する

< 目標設定のポイント >

- 定期的に成果やプロセスを評価すること
- 必要に応じて改善を行うこと
- ニーズに応えること



好きなこと

『外出』



事例② 表明ニード／比較ニード

自分で表現・行動に移す必要性／地域・特性

施設から無断で頻繁に外出しようとするご入居者で、アルコール依存症などの背景があった事例

背景

認知症の進行
ストレス・不安
パーソナルニーズ
施設内環境

評価分析

心理的要因
環境要因
スタッフ対応

目標設定

安全確保
心理的安定
社会的つながりの強化
自立支援
楽しみの設定

改善策の立案

物理的安全対策
居住環境の改善
カウンセリング
レクリエーション活動
地域との交流

フィードバック

行動の背景を理解する
安心感を与える
パターンの特定
環境改善
スタッフ間の共有

リスクマトリックスの構成

リスクが発生する頻度

具体的なリスク評価

	低頻度	中頻度	高頻度	重大頻度
低影響				
中影響		社会的 リスク	心理的 リスク	
高影響		安全 リスク		
重大影響	施設の 信頼性 リスク			

リスクが発生した場合の影響度

評価分析

2段階目の優先順位のマトリックス

すぐ終わるものが最優先

		重要度&緊急度	
		高	低
かかる時間	短	1	2
	長	3	4

重要度&緊急度は低くても、短時間でできるものを先にや

リスクマトリックスは、リスクの評価と管理のために用いるツールで、リスクの発生確率と影響度を視覚的に表現します。すぐ終わるものを最優先にする場合、リスクマトリックスを図のように構成することができます。

評価分析

安全リスク

影響度	高	負傷・生命の危険
発生頻度	中	施設状況や管理体制による
対策	緊急対応策の強化・管理体制の見直し	

心理的リスク

影響度	中	ストレス・不安の増加
発生頻度	高	エスケープ行動の頻度
対策	定期的なカウンセリング・心理的サポートの強化	

社会的リスク

影響度	中	社会的孤立・人間関係の悪化
発生頻度	中	エスケープが継続する場合
対策	関係機関との連絡促進・地域支援の活用	

施設の信頼性リスク

影響度	重大	施設の信用低下
発生頻度	低	希少なケース

影響度と発生頻度に基づいて、リスクマトリックスに分類し、具体的なリスク対策を実行しました。そしてリスク対策の効果をモニタリングし、必要に応じて計画を見直しました。

改善策①「GPSでつなぐ地域交流」

半田養護老人ホームから
半田市社会福祉協議会への徒歩ルート

<成果・効果>

なじみの関係である社協職員と交流することが楽しみとなった

一人では意思の弱さからエスケープのリスクがあるが、GPSがお守り替わりとなり心理的安定へつながった

“Linkから社協まで”

距離 2 km

所要時間 30分（徒歩）

Link

社協

社協への外出

地域交流を行う際に 注意すべき点

- プライバシー保護
- デバイスの使いやすさ
- デバイス装着方法
- バッテリー管理
- 緊急時対応策
- 交流サポート

改善策②「社会的つながりの強化」

より良い地域交流を実現

～外出支援(買い物・初詣・はんだシティマラソン参加)～

<成果・効果>

外出支援を行うことで、社会的
つながりの強化が図れた



フィール Cフェスタ



半田市宮路町 住吉神社



<今後の課題>

フィードバック達成のために以下のステップを取り入れる



1. 行動の背景を理解する



ご入居者の行動がどのような状況で発生するのかを共有し、スタッフが一貫した対応を取れるようにする

2. 安心感を与える



ご入居者が安心感を覚える場面や活動についての情報を共有し、効果的なケアを提供する

3. パターンの特定



特定されたパターンに基づいて、予防策・対応策をスタッフ間で共有する

4. スタッフ間の共有



各スタッフが得た情報や知見を共有し、一貫したケアを提供する

5. フィードバック実施



達成度や改善点について具体的なフィードバックを行い、次のステップを明確にする



事例② 表明ニード／比較ニード

自分で表現に移す必要性／特性

令和5年11月 看取りに同意されたご本人がおしゃれを楽しむことで自己表現や心理的安定をより充実したものにするために、自分らしさを維持する手段があった事例

背景

自分らしさを維持する

評価分析

ご本人の希望を確認
安全に楽しめる方法

心理的安定や幸福感を与える影響評価

目標設定

自己表現の促進
心理的安定

改善策の立案

おしゃれアイテムの提供
スタイリングサポート

おしゃれイベントの企画

フィードバック

ご本人からのフィードバック
スタッフ間の共有
継続的な改善

リスクマトリックスの構成

リスクが発生する**頻度**

具体的なリスク評価

	低頻度	中頻度	高頻度	重大頻度
低影響				
中影響		社会的リスク 健康リスク		
高影響			心理的 リスク	
重大影響	施設の 信頼性 リスク			

リスクが発生した場合の**影響度**

評価分析

2段階目の優先順位のマトリックス

すぐ終わるのが最優先

		重要度&緊急度	
		高	低
かかる時間	短	1	2
	長	3	4

重要度&緊急度は低くても、
短時間でできるものを先にやる

心理的リスク

影響度	高	ストレス・不安の増加
発生頻度	高	自己実現に対する周囲の反応による
対策	定期的なカウンセリング・心理サポートの強化	

評価分析

社会的リスク

影響度	中	社会的孤立・ご入居者関係の悪化
発生頻度	中	自己実現の方法や内容による
対策	ご入居者・スタッフなどとの連携・コミュニケーションの促進	

健康リスク

影響度	中	自己実現がストレスとなり健康に影響を与える場合
発生頻度	中	自己実現の頻度による
対策	定期的な健康チェック・医療サポートの提供	

施設の信頼性リスク

影響度	重大	施設の信用低下
発生頻度	低	希なケース
対策	リスク管理計画の強化・広報活動の見直し	

改善策①

おしゃれアイテムの提供

<成果・効果>

アロマオイルを使用した足のマッサージの評判が良く、心理的安定へつながった



改善策②

スタイリングサポートの提供

<成果・効果>

ニーズを汲み取ったヘアカラーを行うことで、自己表現 及び特性にアプローチできた

目標は、あなたの魅力を最大限に引き出し
自信を持って毎日を過ごせるようにすること



<今後の課題>

フィードバック達成のために以下のステップを取り入れる



1.ご入居者からのフィードバック収集



アンケート調査・定期的なミーティング

2.スタッフ間の共有



フィードバックセッション・記録の活用
フィードバック分析

3.継続的な改善



優先順位の設定・具体的なアクションプラン→実行
のモニタリング・評価と調整→ご入居者への報告・
継続的なフィードバック

<リスタートの成功例>



- E様/看取り対応の方が、ご本人の努力や意志の強さもあり、施設での通常生活が可能になるまで回復された可能性を信じて、ありのままの自分を受け入れ、自己表現を促進することで自分らしさを取り戻すことができた



☆人間にしかできない生きがいを見つけ方は様々で、
方法は一人ひとり異なる
個人的な「生きがい」に正解はない

過去
past

現在
now

未來
future



時代	課題	対策・取組み
過去	<ul style="list-style-type: none"> ■戦後復興期における福祉の不足 ■家族ケアの限界 	<ul style="list-style-type: none"> □公共施設でのケア提供の開始 □政府の福祉政策による施設整備の進展
現在	<ul style="list-style-type: none"> ■高齢化社会による需要の増加 ■人材不足 ■地域連携の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ■多様なサービスの提供 ■スタッフの専門性向上と労働条件の改善 ■地域社会との包括的ケアネットワークの構築
未来	<ul style="list-style-type: none"> □人手不足の更なる深刻化 □テクノロジーの導入と活用 □高齢者の多様なニーズに対応する必要性 □持続可能な運営体制の構築 □コミュニティとの強固な連携 	<ul style="list-style-type: none"> □働きやすい環境の整備とスタッフ育成 □AI・ロボット技術の活用 □個別ケアの強化 □資金確保と効率的な経営 □地域住民やボランティアとの協力体制の強化

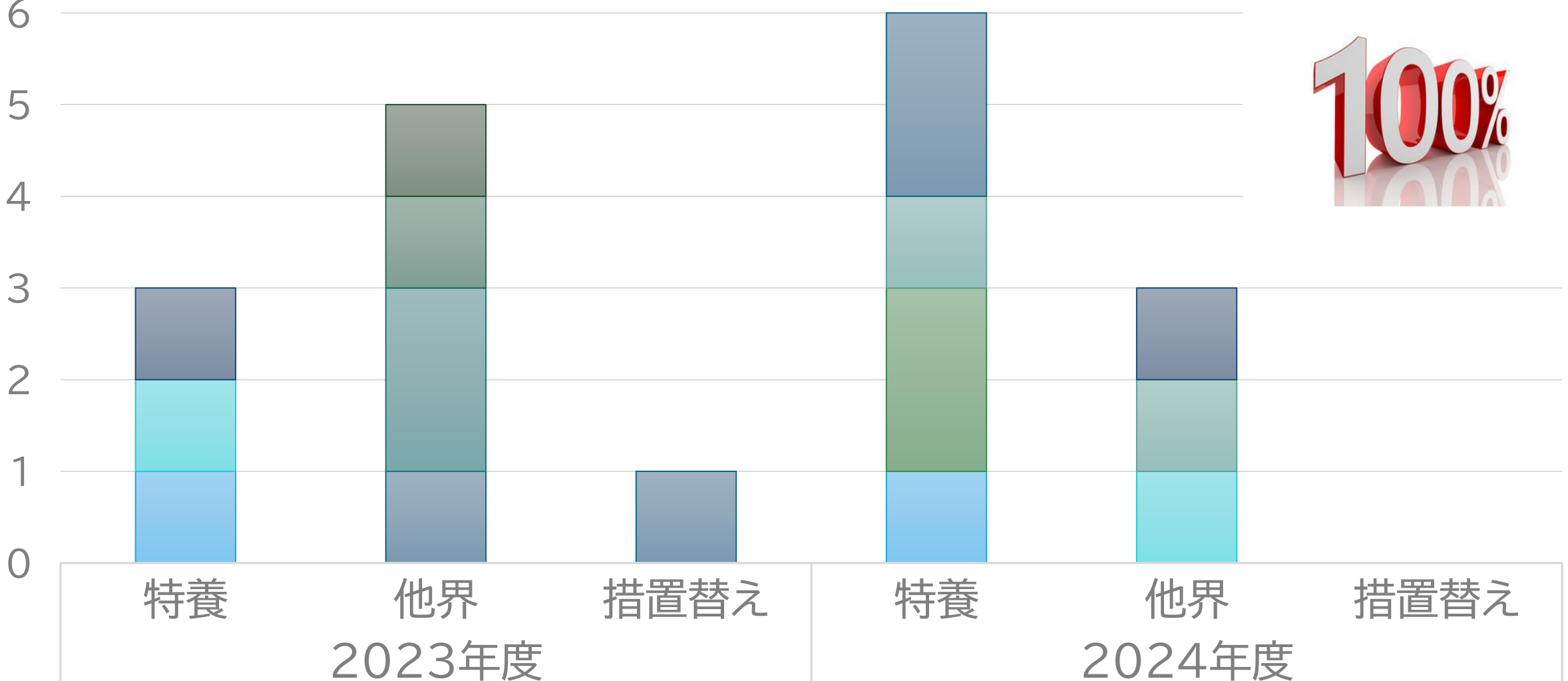
7

人数

Link過去2年間の入居者退所内訳

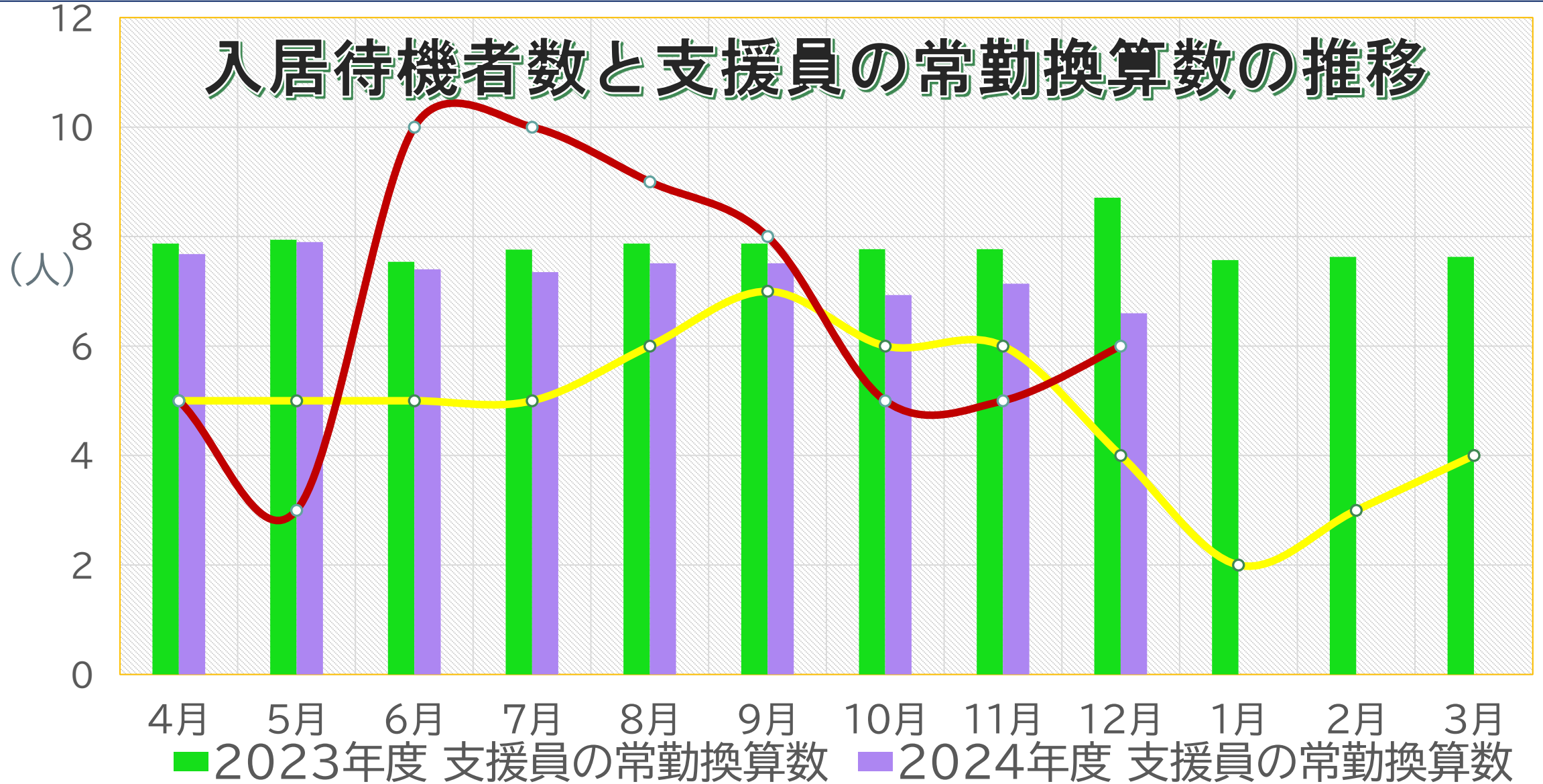
稼働率は維持

100%



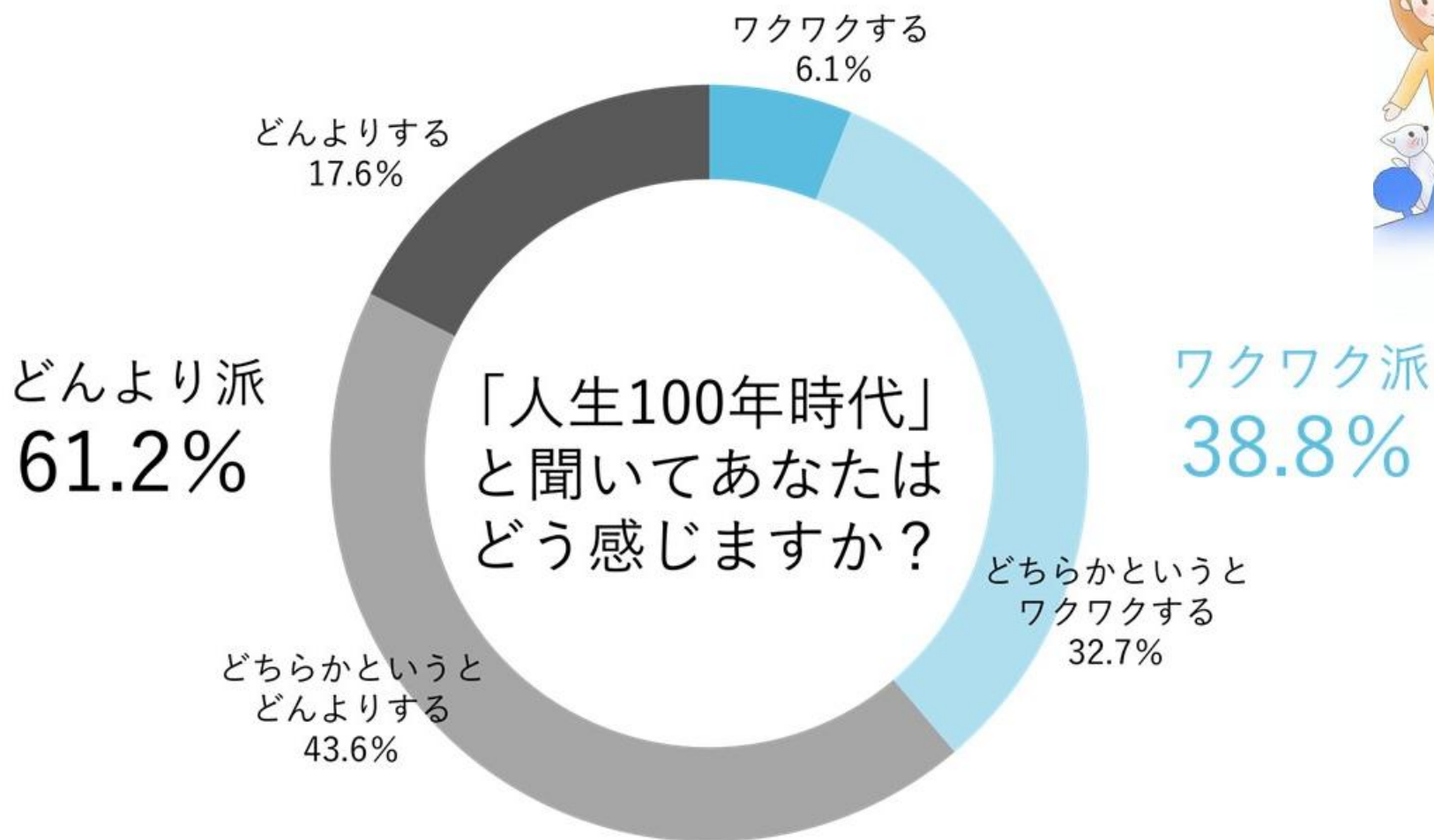
入居待ちリストの長さを現実的に解消するための方法として、具体的なアプローチが考えられます。
 例えば、地域密着型サービスの強化・既存施設の有効活用・在宅介護の支援強化・入居基準の柔軟化・退所基準の明確化・短期間入居の推奨など、
 これらの対策を組み合わせることで、現実的に入居待ちリストの長さを解消することができるでしょう。

入居待機者数と支援員の常勤換算数の推移



人材不足が招く主な弊害として、サービスの質低下・スタッフの過労・入居待機者の増加・離職率の増加・ご利用者の安全など、これらの弊害を防ぐためには、スタッフの増員や労働環境の改善が必要です。

図1 「人生100年時代」のイメージ



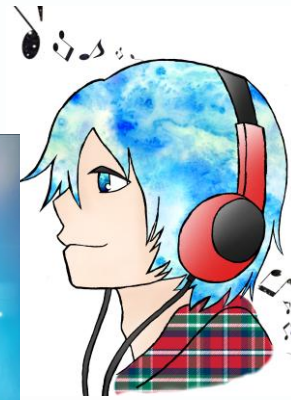
人生100年時代

2050年の未来に向けて

専門性を先鋭化させ、機械ではなく人間が人間にしかできない高品質なサービスを提供することが「人生100年時代」を支える術となっているのではないのでしょうか。

わたしたちが提供する高品質なサービスの核心は、共感・直感・個別化・柔軟性・創造性です。共感に基づいたコミュニケーションと直感的な理解によって、個々のニーズに応じた柔軟な対応と創造的な解決策を提供することではないのでしょうか。

LINK



充実した日々の中 での絆と成長





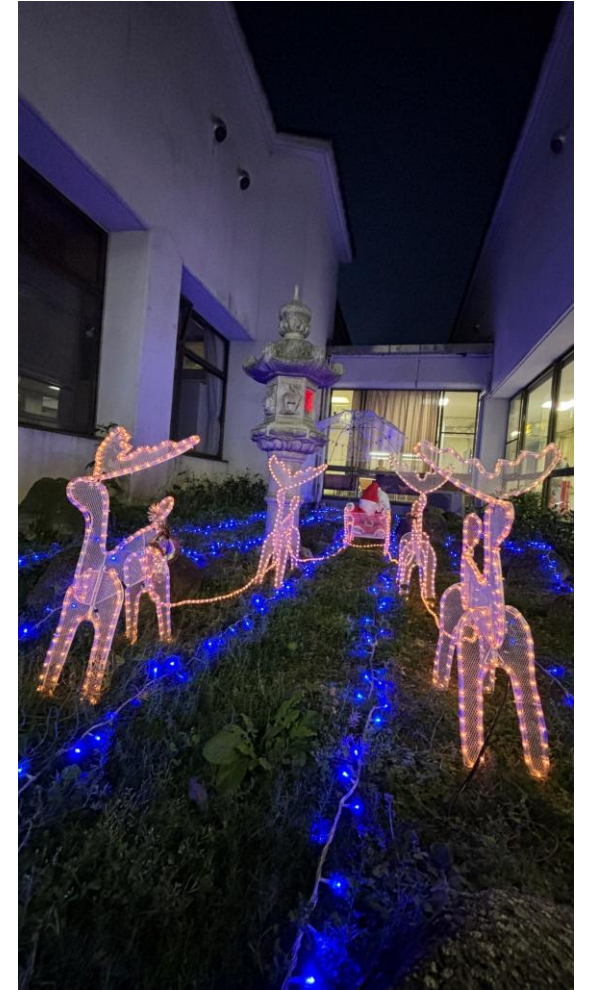




















生きがいは
「生きるうえでの喜びや張り合い」
人はいつでも「リスタート」できる

ご清聴ありがとうございました